

三井物産・博報堂が取り組む 「生活者ドリブン・スマートシティ」のコア事業 「shibuya good pass」と協業します

スマートシティ。IoTの技術を用いて、環境に配慮しながら、交通や教育はもちろん、生活活動全てが行われる、サステナブルな街づくり。今世界中でスマートシティプロジェクトが進んでいますが、三井物産のエネルギーソリューション本部と、博報堂の新規事業開発組織であるミライの事業室が共同で推進しているプロジェクト『生活者ドリブン・スマートシティ』では、生活者が主体的に関わる創造的なまちづくりを通じて、次世代の持続可能なスマートシティモデルの実現を目指しています。そしてこの度、その中のコア事業である、まちサービスプラットフォーム『shibuya good pass』において、プランティオ株式会社（本社：東京都渋谷区 代表取締役 共同創業者 CEO：芹澤 孝悦、以下 プランティオ）は、“農と食”の分野における都市農園サービス『shibuya good farm』のパートナー企業として協業いたします。

取り組みの背景

フードロスや食糧危機、環境破壊の問題、食の安心・安全など、農と食には、「生産」と「消費」が離れていることから起因する様々な社会課題があります。これらの課題の解決のキーとなるのは、野菜を“育てる”と“食べる”をシームレスに、海外ではスタンダードになりつつある Farm to Tableスタイルであるとプランティオでは考えています。

しかしながら、野菜栽培を一度経験した人のうち6割が挫折する、というデータがあります。その理由として多いのが、日々の水やりや間引きなどをする時間がない、生育に不安があるとき何をすればいいかわからず枯らしてしまったなど。そこで、プランティオでは、IoTセンサーやアプリを使い、テクノロジーとコミュニティによって収穫までをサポート。コミュニティメンバーで野菜を育てるサービスを実施しています。コミュニティで野菜栽培をすることで長く続けられる、コミュニティファームが広がることで緑が広がり、温暖化対策への貢献度など、ソーシャルグッドなインパクトが広がる。

生活者が主体的に関わるまちづくりを目指す『生活者ドリブン・スマートシティ』とビジョンが合致していたことから、このたびパートナー企業として協業させていただくこととなりました。



みんなの野菜栽培で渋谷が変わる



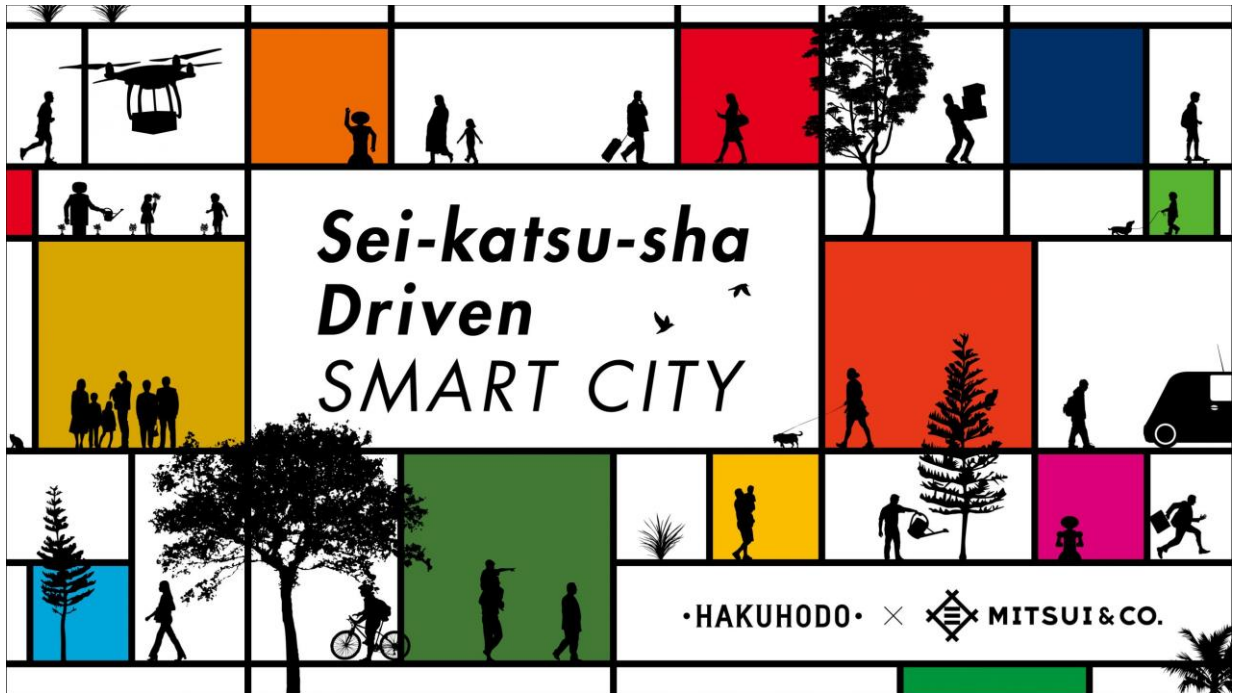
『shibuya good farm』は、楽しく育てて、楽しく食べる、コミュニティ。みんなで協力しながら野菜を育てる、都市農園の会員サービスです。都会にいても、土いじりを通じて、仲間と話したり、気分をリフレッシュする時間があります。IoTセンサーで作物の状態を把握し、アプリで確認することができるから、畑に行っていない時も楽しめます。また、月に1度、近隣のレストランで、育てた野菜を使った美味しい料理を、仲間と楽しむことができます。

good farm

本リリースに関するお問い合わせ

プランティオ株式会社PR担当 E-mail:info@plantio.com

生活者ドリブン・スマートシティについて



博報堂の新規事業開発組織「ミライの事業室」と三井物産が共同で進める生活者を中心としたまちづくり構想。
博報堂リリース：<https://www.hakuhodo.co.jp/news/newsrelease/84703/>

shibuya good pass（渋谷グッドパス）について



人・まち・地球、みんなにとっての good をつくっていく、暮らしへのパスポート。渋谷をもっとよくするアイデアを発信したり、good だと思えるサービスを利用し、応援することで、みんなの力で、渋谷のミライを good にしていきます。2021 年中サービス開始予定。

特設サイト：<https://goodpass.app/>

博報堂リリース：

<https://www.hakuhodo.co.jp/news/newsrelease/86220/>

【会社概要】会社名：プランティオ株式会社 代表者：芹澤孝悦（せりざわたかよし）

所在地：東京都渋谷区神泉町11-7 設立：2015年6月16日 資本金：1億6485万円

プランティオは、「楽しく育てて、楽しく食べる。」をビジョンに、都市における野菜栽培と食の新しいライフスタイル「Farm to Table」をデザインする会社です。

本リリースに関するお問い合わせ

プランティオ株式会社PR担当 E-mail:info@plantio.com